

# 定例記者会見資料



○日 時	平成 27 年 10 月 14 日 (水) 13 時 30 分～
○会 場	島根県立大学 本部棟 2 階 特別応接室
○会見者	本田雄一 理事長・学長
○会見項目	<p><b>【浜田キャンパス】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合政策学部 自己推薦入試出願受付開始について……………〔資料 1〕</li> <li>・【高大連携事業】アカデミックインターンシップの開催について……………〔資料 2〕</li> </ul>
○資料提供項目	<p><b>【浜田キャンパス】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 27 年度「フレッシュマン・フィールド・セミナー」開始 ～地域の課題発見と課題解決能力を習得～……………〔資料 3〕</li> <li>・保護者進路懇談会の開催について……………〔資料 4〕</li> <li>・国際学術会議「タタール世界と日本—文化・経済・技術の接触と相互関係—」の 開催について……………〔資料 5〕</li> </ul> <p><b>【出雲キャンパス】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 27 年度健康教育講演の開催について……………〔資料 6〕</li> </ul>
○行事予定	<p><b>【浜田キャンパス】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者進路懇談会……………10 月 25 日 (日)</li> <li>・はまだ灯……………10 月 26 日 (月)</li> </ul> <p><b>【出雲キャンパス】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者懇談会……………10 月 31 日 (土)</li> <li>・大学院看護学研究科 入試……………11 月 3 日 (火)</li> </ul>

※会見及び資料提供に関する問い合わせは、資料に記載されている担当者あてにお願いします。  
 なお、行事予定の問い合わせは、以下のとおり、お願いします。

浜田キャンパス 企画調整室 TEL 0855-24-2201  
 出雲キャンパス 管理課 TEL 0853-20-0200  
 松江キャンパス 管理課 TEL 0852-26-5525

※次回の定例記者会見は平成 27 年 11 月 11 日(水)13:30 から開催予定です。

島根県立大学  
 マスコット  
 キャラクター  
 オロリン



平成 27 年 10 月 14 日  
 島根県立大学 浜田キャンパス  
 アドミッション室 坂田栄一郎  
 電話 0855-24-2203

## 自己推薦入試（総合評価型）出願受付開始について

### 1. 自己推薦入試（総合評価型）について

従来の推薦入試（全国一般・県内一般）及びアドミッションオフィス入試を昨年度より一本化し、総合評価型の自己推薦入試を実施しています。

この「総合評価」とは、総合課題、面接試験及び大学入試センター試験と提出された書類（志願理由書、出身学校の調査書）により、能力・適性、学習意欲、目的意識、表現力等を総合的に評価し、判定を行うものです。

10月26日(月)から10月30日(金)まで出願受付を行います。

### 2. 試験スケジュール

内 容	日 程
出願期間	平成 27 年 10 月 26 日(月)～平成 27 年 10 月 30 日(金)
総合課題	平成 27 年 11 月 14 日(土)
面接試験	平成 27 年 11 月 14 日(土)～11 月 15 日(日)
大学入試センター試験	平成 28 年 1 月 16 日(土)～1 月 17 日(日)
合格発表	平成 28 年 2 月 10 日(水)
入学手続き期間	平成 28 年 2 月 11 日(木)～平成 28 年 2 月 17 日(水)

### 3. 出願資格

次の各号をすべて満たす者とします。

- (1) 平成 26 年 3 月から平成 28 年 3 月までに高等学校もしくは中等教育学校の後期課程を卒業した者及び卒業見込みの者、または同期間に通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者及び修了見込みの者
- (2) 合格した場合には必ず入学することを確約できる者
- (3) 学業成績の全体評定平均値が 3.5 以上の者

(参考：平成 27 年度自己推薦入試実施結果)

	募集 定員	出願者数		受験者数		合格者数		入学手続き者数		入学辞退者数		入学者数			志願 倍率	実質 倍率	入学 手続率	
		県内	( )	県内	( )	県内	( )	県内	( )	県内	( )	県内	男	女				
自己推薦入学(総合評価型)	75	48	(30)	48	(30)	47	(30)	46	(30)	0	(0)	46	(30)	(22)	(24)	0.64	1.02	97.9%

## 自己推薦入試の概要について

### 1. 募集人員

75名

募集人員の45人を島根県内の高等学校等からの受験者から成績順に選抜し、次に募集人員の30人を島根県外の高等学校等からの受験者及び45人の選抜枠に入らなかった島根県内の高等学校等からの受験者から成績順に選抜。

### 2. 選抜方法

#### (1) 概要

総合課題、面接試験及び大学入試センター試験と提出された書類（志願理由書、出身学校の調査書）により、能力・適性、学習意欲、目的意識、表現力等を総合的に評価し、判定。

#### (2) 各選抜方法について

試験日	選抜方法	内容
11/14 (土)	総合課題	○模擬講義を実施 ○講義終了後に講義内容の再現能力、即応力、応用展開力をみる社会科学系の総合課題を実施
11/14(土) 15(日)	面接試験	○出願書類に基づき、本人の能力・適性、学習意欲、目的意識、表現力等を面接により総合的に判定 ○面接時間は25分程度
1/16(土) 1/17(日)	大学入試センター試験	国語 必須
		地歴・公民、 数学、理科 3教科の中から1科目を選択
		英語 (リスニングテスト有) 必須

※出願等について

項目	日程
出願期間	平成27年10月26日(月)～平成27年10月30日(金)
合格発表	平成28年2月10日(水)
入学手続期間	平成28年2月11日(木)～平成28年2月17日(水)

### 3. 配点

個別学力検査		大学入試センター試験					合計
総合課題	面接試験	国語	地歴・公民	数学	理科	英語	
配点 300点	配点 400点	100	(100)	(100)	(100)	100	1000
配点 300点							

(注) 表中の( )は、同種類の括弧の中から1科目を選択することを表します。

## 【資料 2】

平成 27 年 10 月 14 日  
島根県立大学 浜田キャンパス  
アドミッション室 坂田栄一郎  
電話 0855-24-2203

### 【高大連携事業】アカデミックインターンシップの開催について

#### 1. 目的

日常の大学生生活の一端を体験し大学で学ぶ姿勢を経験することで、入学前の「学生生活イメージ」とのギャップ解消や、自己の将来についてイメージを持つことで高校生活をより充実したものにしていただくことを目的とします。また、この機会を通して本学への主体的な進路選択を促す一助となることを意図し今年度初めて開催します。

#### 2. 日程、参加校及び参加予定人数

	参加日程	学年	人数 (予定)
浜田高校	10月29日 (木) 午前中	2年生	116名
江津高校	12月15日 (火)	2年生	20名程度

#### 3. 内容

- ・受講講義を自由に選択して受講  
※通常の授業に参加するため、本学学生の履修登録状況により制限される場合あり
- ・学生食堂での昼食
- ・キャンパス内の自由見学
- ・本学のボランティア学生との交流
- ・職員による、入試や学生生活、就職活動についての相談など

#### 4. 参加対象校

平成27年度については、本学との高大連携協定を締結している浜田高校及び江津高校の生徒を対象として開催します。



(参考)

H27 島根県立大学アカデミックインターンシップ  
浜田高校向け提案資料

## 平成 27 年度島根県立大学高大連携事業

### <アカデミックインターンシップ>開催ご提案

この度島根県立大学〔総合政策学部〕では、本学の地域の課題発見やその解決に繋がる学習や、その成果や大学での経験を将来グローバルな視点で実践する人材を育成する学びの特徴を理解していただくための「アカデミックインターンシップ」を開催いたします。

日常の大学生活の一端を体験し大学で学ぶ姿勢を経験することで、入学前の「学生生活イメージ」とのギャップ解消や、自己の将来についてイメージを持つことにより受験勉強のモチベーションを高めることにも繋がると考えます。

ついては、下記をご高覧の上参加を希望する生徒様への配慮をお願いいたしたくご案に申しあげます。

- 1 実施期間** 平成 27 年 10 月 26 日（月）～30 日（金）  
別紙で示す講義を対象（以下、対象講義）とします
- 2 申込受付スケジュール**  
10 月 9 日（金） 【浜田高校あて】対象講義（確定）及び各講義の受入可能人数を通知  
10 月 16 日（金） 参加申込締切（浜田高校とりまとめによる）  
10 月 19 日（月） 受講する講義の決定、通知（浜田高校宛て）
- 3 参加対象者** 浜田高校 2 年生及び 3 年生
- 4 参加形態** 通常講義への参加とします
- 5 受講当日の流れ**

来学後、指定した集合場所に集合。受講講義・教室の確認、受講上の注意事項を周知



受講する教室入り口前で、担当チューター（原則本学学生）のもとに集合し、適宜受講にあたってのアドバイスを受け着席



受講終了後にレポートを配布、提出方を説明（レポートは後日高校にて回収）

## 6 注意事項

- (1) 1 講義あたり約 20 名程度を限度とした受け入れを行うものとします。このため、本学秋学期履修登録完了後の受け入れ人数確定となります。
- (2) 参加する生徒様には、事前に受講を希望する講義を選択していただきます。(1) による調整により本学で受講人数及び講義の調整を行う場合がありますので、予めご了承ください。
- (3) 受講にあたっては、本学学生の「学生チューター」に、講義受講前に適宜、受講にあたってのアドバイス等をお伝えすることとします。
- (4) 空きコマを過ごすことのできる教室等（待機場所）を確保し、随時質問・相談等への対応を致します。
- (5) 昼休みや空きコマなどは、自由に学内の見学をしていただいて構いません。

## 7 その他

「アカデミックインターンシップ」に参加した生徒様には、レポートのご記入にご協力いただきます。後日、高校単位で取りまとめていただき、本学アドミッション室にお送りください。

島根県立大学アドミッション室

〒697-0016

島根県浜田市野原町 2433-2

TEL0855-24-2203

FAX0855-23-7352

E-mail [e-sakata@admin.u-shimane.ac.jp](mailto:e-sakata@admin.u-shimane.ac.jp)

担当者：アドミッション室

室長 坂田 栄一郎

平成27年度 秋学期時間割表

	月曜日					火曜日					水曜日					木曜日					金曜日										
	科目名	担当	教室	配当年次				科目名	担当	教室	配当年次				科目名	担当	教室	配当年次				科目名	担当	教室	配当年次						
				1年	2年	3年	4年				1年	2年	3年	4年				1年	2年	3年	4年				1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年
1時限目 自 9:00 至 10:30	日本語Ⅲ	小林(明)	演習13	●			社会調査入門	藤原	大講1	○			インッシュマン英語コミュニケーションⅡ	別記1参照	●			近現代史入門	石田	大講1	○	○			憲法Ⅰ	岡本	大講2	○	○		
	中国語Ⅲ[A]・[B]	別記1参照			●		行政学	光延	中講5	○	○		中国語読解Ⅰ	別記1参照		○	○	マクロ経済学	林田	大講2	○	○			中国政治外交論	李(暁)	演11		○	○	
	韓国語Ⅲ[A]・[B]	別記1参照			●		中級英語Ⅱ(コソモイ・ライティング)	別記1参照			○		韓国語読解Ⅰ	別記1参照		○	○	政策過程論	光延	中講4		○	○		朝鮮半島社会論	福原	中講2		○	○	
	ロシア語Ⅲ	別記1参照			●		地域観光資源論	林(秀)	中講1		○	○	多文化理解特別演習Ⅱ	別記6参照		○	○	ロシア政治経済論	林(裕)	中講5			○	○							
2時限目 自 10:40 至 12:10	フレッシュマン英語コミュニケーションⅡ	別記1参照		●			統計学Ⅰ	寺田	講堂	●			中国語会話・聴解Ⅰ	別記1参照		○		中国語Ⅰ(A)・(B)	別記1参照	●					国際政治学入門	赤坂	大講1	○	○		
	GIS概論	松田	中講5		○	○	環境経済学	豊田	中講5		○	○	韓国語会話・聴解Ⅰ	別記1参照		○		韓国語Ⅰ(A)・(B)	別記1参照	●				比較文化論	渡部(望)	中講3		○	○	○	
	生徒指導論	川中	演習6		◎	◎	英字新聞リーディング(英字新聞読解法)	別記1参照			○	○	日本語Ⅳ	小林(明)	小講6	●		ロシア語Ⅰ	シローコフ	小講1	●										
							日本朝鮮半島交流史	石田	中講3			○	○	総合演習Ⅱ	別記3-1参照		●		英語学概論Ⅱ	島田(祥)	小講6		○								
3時限目 自 13:10 至 14:40	中国語Ⅰ(A)・(B)	別記1参照		●			フレッシュマン英語コミュニケーションⅡ	別記1参照	●			フレッシュマン英語コミュニケーションⅡ	別記1参照	●			フレッシュマン・フィールド・セミナー	別記2参照	●						英文法Ⅱ	島田(祥)	小講6	○			
	韓国語Ⅰ(A)・(B)	別記1参照		●			統計分析技法	松田	中講2		○		英語リーディングⅡ	別記1参照		○		環境関係法	岩本	中講3		○	○		経営管理論	田中	中講5	○	○		
	ロシア語Ⅰ	シローコフ	小講1	●			生活時間構造論	藤原	中講4		○	○	総合演習Ⅳ	別記3-2参照		●		アカデミックライティング	ケイン	演習10			○		日本思想史	井上(厚)	大演2		○	○	○
	北東アジア関係概論	井上(治)	中講5		○	○	芸術学	八田	中講5		○	○												教職実践演習	大橋(敏)	大演1				◎	
4時限目 自 14:50 至 16:20	世界経済論(国際経済論)	木村	大講2		○	○	中国経済論	張(忠)			○	○																			
	現代企業論	生田	中講6		○	○	平和学基礎論	村井	中講3		○	○																			
	上級英語Ⅱ(ディスカッションとディベート)英語ディベート入門)	別記1参照			○		教育心理学	川中	演習5		◎	◎																			
	英語科教育法Ⅰ	ケイン	小講4		◎	◎																									
5時限目 自 16:30 至 18:00	キャリア形成Ⅱ	松尾	大講1		●		民法と家族	李(憲)	大講1	○	○		インターンシップ入門(隔週)	松尾	中講3	○	○	○	情報処理の基礎Ⅱ							李(憲)	大講1	○	○		
	英語リーディングⅡ	別記1参照			○		イギリス近現代史	渡辺(有)	大講2		○	○	英語コミュニケーションⅡ(再)	ハリス	小講5		●		キャリア論	生田	中講6		○	○		目中間論	江口(伸)	大講2		○	○
	体育実技Ⅱ	齋藤	体育館	◎	◎	◎							英語コミュニケーションⅡ(再)						教職入門(隔週)	塩津	中講2		◎	◎							
													TOEIC講座	(並河)	(大講2)	△	△	△	△	メディア英語CALLⅡ(再)	木地山	小講5	●								
6時限目 自 18:10 至 19:40	政治学	村井	中講4	○	○		社会学	中川	大講1	○	○		TOEFL米留学準備講座(江口(真))(会議室A)												刑法	三宅	大講1	○	○		
	行政法Ⅱ	岩本	中講2		○	○	アジア比較政治	佐藤	大演1		○	○	韓国語特別演習Ⅱ(呉)(演習13)												(韓国語特別演習Ⅱ)	(呉)	(演習13)	△			
	英語学特別演習Ⅱ	三浦	演12		○		情報政策論	金野	中講3		○	○																			
							イングリッシュワークショップⅡ(再)	島田(祥)	小講2	●																					

10月29日(木)  
浜田高校参加予定

12月15日(火)  
江津高校参加予定

※表中の学年の欄の●は必修科目、○選択科目、◎は自由科目、△は正規外授業科目を表示  
 ※「英語ジャーナル購読」「多文化理解特別演習Ⅲ」「北東アジア地誌」「NPO活動論」「日本政治思想史Ⅱ」「消費流通経済論」「現代の経済」「アジア経済論」「現代まね学・実践Ⅱ」は平成27年度は非開講とする。  
 ※別記は裏面を参照すること  
 ※教室等が変更になる場合があるので、学生情報システムを適宜確認すること  
 (作成:平成27年3月31日)

平成27年10月14日  
島根県立大学  
事務局地域連携課  
担当：河部  
電話：0855-24-2396

## 平成27年度「フレッシュマン・フィールド・セミナー」開始 ～地域の課題発見と課題解決能力を習得～

島根県立大学総合政策学部では、平成23年度より始まった「フレッシュマン・フィールド・セミナー」が、今年度もこの秋学期から開講され、さる10月1日から授業が始まりました。学生が初年次生の時点から社会に触れ、地域住民と接することを通じて、自らの学習目的を明確化し、主体的に将来像を描く力をつけさせることを目的としています。

このセミナーでは、学生が島根県内、浜田市、近隣地域等、社会のさまざまな現場（フィールド）に出かけていき、そこでフィールドにおられる人々への調査を通じて地域の課題を発見し、その課題の解決策を計画し、提案していきます。授業の流れは事前学習に始まり、フィールド調査、調査結果分析、課題解決策の提案、成果発表のプロセスで構成されています。全15回の授業のうち、概ね10～13回を教室で行い、2～5回のフィールド調査を実施します。

このセミナーは春学期のフレッシュマン・スキル・セミナーで学んだアカデミック・スキルを活用しながら、課題発見と課題解決能力を身につけ、2年次から始まる専門教育への橋渡しをするセミナーです。またグループ学習を実施するセミナーの場合、受講生は少人数のグループを組み、協同作業による自発的で能動的な学びを実践していきます。学期末にはポスターセッション形式の合同成果発表会を開催し、報告書を作成します。

◆今後、各クラスの担当教員の指導のもと、随時全受講生がキャンパスを飛び出し、クラスごとに地域の現場に出かけていきますが、クラスによって取り組むテーマや取材・調査先は異なります。詳しくは、別紙の参考資料をご参照ください。

〈参考資料〉

平成 27 年度 フレッシュマン・フィールド・セミナー

教員名	テーマ・概要等	フィールド
赤坂一念教授	本セミナーでは、「海の治安維持」に注目します。島根県沿岸の海の安全安心の中心の担い手である浜田海上保安部(海上保安庁の浜田支部)に赴き、海上保安官の方からレクチャーをいただいたり、3年前に浜田に新たに配備された巡視船いわみの船内見学や、石見大崎鼻灯台の実地見学を通じて、県立大学の地元浜田市が、海で日本各地、さらには海外とどのようにつながっているのか、「地域」と「国際」の往来を意識しつつ考察していきたいと思えます。	・浜田海上保安部
瓜生忠久教授	☆新シリーズ「地域の“生活”実態を知る その1：浜田在留の外国人の生活実態を知る」 「地方創生」が叫ばれる中で、地方の若年労働力は年々減少している。従来からの地域産業としては、他のアジア地域から“研修生”の名目で、労働力を確保しているという実態がある。 この“浜田在留の外国人の生活実態”を調べ、彼らとの交流を通して、互いの文化的相違や価値観の違いを知ること、県大生が自らの将来(就職活動)や地域の活性化策を考える上で役立つ材料となろう。	・佐和法律事務所 ・就労している人々との交流会等での撮影取材(場所未定)
大橋敏博教授	このセミナーでは、島根あさひ社会復帰促進センター(「あさひセンター」)及びグラントワ(島根県芸術文化センター)を取り扱います。 このセミナーの目標は、あさひセンター及びグラントワの現状を調査し、現在いろいろと取られている施策を考え、課題を発見し、さらに出来得ればこれらをより活性化させるための策を提案することです。	・島根あさひ社会復帰促進センター(あさひセンター) ・グラントワ(島根県芸術文化センター)
川中淳子教授	「島根県立少年自然の家での体験活動」 島根県立少年自然の家での体験活動をとおして、より良い社会教育について検討する。 受講生には体験活動の意義について、知的理解だけではなく実感を持った理解を得てほしい。そのためにも、自然の家での体験活動を共に楽しんでもらいたい。 本ゼミナールでは研究を深めるだけでなく、自然の家での体験活動をとおして、ゼミ生間の交流が活発になることや各受講生の成長も期待しています。 フィールド調査は11月21日-22日に一泊二日で実施する。	・島根県立少年自然の家
八田典子教授	里山の自然環境を活かしてコケを栽培し、全国販売を行っている、江津市の「コケプロジェクト」に注目します。 コケは、昨今、ビルの屋上や壁面の緑化材として、また、ガーデニングや盆栽、コケ玉やテラリウムの素材として、大きな関心を集めています。今春、世界的庭園デザイナー・石原和幸氏の手によりリニューアルオープンした渋谷駅・ハチ公前花壇にも、江津のコケが使われ、話題となりました。 「コケプロジェクト」のこれまでの取り組みについて学ぶとともに、地域資源としての新しい可能性について、学生の視点を活かしたアイデアを考案することを目標とします。	・江津市内の生産現場 ・江津市農林水産課
林秀司教授	島根県の人口は長らく社会減が続いており、その対策として雇用の確保が課題となっている一方で、とくに中小企業について、人材確保(人手不足)と定着(早期離職)もまた	・石見地方の企業(各班3社ほど、予定)

	課題となっている。そこで、当ゼミでは、とくに石見地方をとり上げ、企業の人材確保の状況や従業員の働き方などについて、聞き取り調査を行い、考察を試みる。	
藤原眞砂教授	浜田市の産品政策と山海の産品リストの作成（第一次産品(未加工品)を中心に）。 すでに加工品については石見の4市5町の産品データベースおよびホームページを作成している。これを充実させるとともに、本年度は海や山の農林漁業の一次産品に注目し、情報を収集する。自然と生活について考察する。	・浜田市産業経済部 ・浜田市内の地域産品業者
別枝行夫教授	「道の駅」を比較検討する 日本国内の「道の駅」の多くは、国道沿いにあり、その地方の特産品や食材などを販売したり、それらを用いた食事を提供する食堂が付設される場合もあります。 山口県萩（はぎ）市の「萩しーまーと」も道の駅です。この施設は近年相当に注目をあびています。浜田市にある2つの道の駅と萩しーまーとは一体何処が違うのか？これらを比較調査して、道の駅の将来に向けた提言をするのが今年度FFSの目的です。 フィールドを4回訪ね、面接調査を行い、そこで食事をする予定です。フィールド調査の日は大学に戻る時間が夕方になるのでそのつもりでいて下さい。	・ゆうひパーク浜田 ・ゆうひパーク三隅 ・萩しーまーと
光延忠彦教授	「若者の投票率をいかに向上させるかー18歳への選挙権年齢引き下げと合わせてー」 この通常国会で、選挙権年齢を20歳から18歳に引き下げる公職選挙法改正案が成立した。この改正は、1945年に20歳以上の男女に選挙権が与えられて以来70年ぶりのことである。この結果、現在、高校生である3人に1人は有権者となって、2016年7月の参議院通常選挙からは投票できることになった。こうして新たに有権者になる若者は240万人も増加する。 しかし、一方で、有権者の中でも、20歳代の、若い世代の投票率は依然として低い状況にある。 そこで、このクラスでは、「若者の投票率をいかに向上させるか、18歳選挙権年齢の引き下げと合わせて、その方策を考えよう」という点から、調査研究を試みる。 具体的には、①島根県の状況を踏まえた上で、②中国地方の中でも、2014年度に、若者の投票率の向上方策で成功し、全国的にも有名になった広島県の場合を調査し、③両者の比較から浮かび上がる方策について検討し、④その方策を実際に実行して（模擬投票、学生議会、政党や候補者のマニフェスト調査など）、⑤この授業の課題に応えることにしたい。	・島根県庁 ・広島県庁 ・浜田市選管
渡部望教授	津和野町の歴史的な文化財を活用した観光業の現状を調査し、課題を発見し、町の観光業を活性化するための振興策を提案する。	・津和野町
久保田典男准教授	テーマ：地域企業の事業展開 島根県を代表する道の駅/キララ多伎の運営会社である株式会社多伎振興を調査対象として取り上げ、同社の取組を調査することを通じて、企業を調査するうえでの手法を学ぶとともに、企業の抱える課題やその解決策、企業の事業展開の取組みについて学ぶことを目的とする。 具体的には事業所の見学や関係者へのインタビュー、道の駅/キララ多伎における来店客へのアンケート調査等を行う。	・道の駅キララ多伎（運営会社：株式会社多伎振興
西藤真一准教授	テーマ：私たちの暮らしを支えるインフラの役割 インフラは「社会資本」とも呼ばれ、私たちの暮らしを目立たないところで支えています。普段、目立たない存在ですが、それがなければ日常生活が不便になったり、今	・島根県浜田県土整備事務所 ・浜田港

	後の地域の発展も阻害されてしまいます。このゼミでは、私たちの社会や経済を支える様々なインフラについて、「誰が」「どのように」施設を整備・維持管理しているのか学びます。	
田中恭子准教授	「島根県内企業のマーケティング戦略について」 本演習では、島根県内の企業を中心とした（場合によっては行政、NPO等）事業者へのヒアリング調査を実施し、①対象企業の業務内容、経営課題、主力商品、重点戦略等を理解した後、②当該企業のマーケティング戦略（製品、価格、販売促進、流通）について、各企業が具体的にどのような戦略対応を行っているのかを事例比較を通じて明らかにする。調査を通じて島根県内での企業におけるマーケティング戦略の現状や課題について理解し検討を行うことを目的とする。	・県内企業（行政、NPO等）を予定
林田吉恵准教授	浜田市水産業と外国人労働者の受け入れについて 日本は少子高齢化が進む中、労働者人口の減少が大きな問題になっている。その労働力人口の減少を防ぐ手段にひとつとして外国人労働者の受け入れがある。 これまで、安く使えて、必要なくなれば切り離せばいいという発想で企業に受け入れられ、雇用の調整弁としての役割を果たしてきた外国人労働者であるが、人口減少が本格化してくるなかで、日本を取り巻く環境は様変わりし、外国人労働者を受け入れて労働力を確保しようという動きが再び活発化している。 浜田市水産業では外国人労働者を受け入れざるを得ない状況だが、その様相は年々変わってきている。浜田市水産業に関わる問題等とあわせて、外国人労働者の環境の変遷を探る。 フィールドワークとしては、まず浜田市水産振興課、実際に外国人労働者を使っている企業にもヒアリングを行う。	・浜田市水産振興課 ・浜田市水産業者
豊田知世講師	国際的な視点で地域資源をみる 日本は世界から見てどのような地域なのでしょう？ 島根県の地域資源にはどのような特徴があるのでしょうか？ このゼミでは、日本が行ってきた国際協力の取り組み事例を調べ、地域資源の新たな海外展開の可能性について探っていく事を目的としています。また、海外事例から地域が学べることについて調べ、客観的な視点にたつて物事を見られるようになることを目的としています。	・浜田市国際交流課 ・石州和紙会館
中川敦講師	福祉現場における高齢者とのコミュニケーションに関する調査・分析を通して、高齢者の方とのより良いコミュニケーションのあり方について明らかにすることを目指します。 特定の高齢者福祉施設に赴き、高齢者の方と、スタッフ・学生との間のコミュニケーション（特に会話）についてビデオ撮影取材を行い、得られたデータについて、「会話分析」というアプローチから分析します。	・島根県内の特別養護老人ホーム

※授業の進行の過程において、内容を一部変更する場合があります。フィールド調査等の授業スケジュールは、クラスによって異なります。

平成27年10月5日  
島根県立大学 浜田キャンパス  
担当：木村慎太郎(キャリア支援室)  
電話：0855-24-2202

## 保護者進路懇談会開催について

### 1. 目的

学修や大学生活及び進路に関する情報交換を行うことにより情報の共有を図るため

### 2. 日時

平成27年10月25日(日) 10:00～15:40

### 3. 会場

午前の部(全体会) <10:00～12:15> : 講堂  
午後の部(ゼミ面談) <13:10～15:40> : 体育館

### 4. 内容

<内容>

午前の部(全体会) : 株式会社リバースキャリアパートナーズ代表取締役、  
坂本章紀氏ご講演  
午後の部(ゼミ懇談) : 担当ゼミ教員との懇談会(1組20分程度)

### 5. 参加人数

保護者、学生の総数。平成27年10月5日現在。

<参加人数>

午前の部(全体会) : 149名  
午後の部(ゼミ懇談) : 115名

### 6. これまでの経緯や今回の特徴など

学生、保護者及び大学関係者が一堂に会して、学修や大学生活及び進路に関する情報交換により情報の共有を図ることを目的として開催しております。午前には昨年のご好評を頂きました坂本様より就職活動に関するご講演を頂き、午後にはゼミ担当教員との懇談の場をご用意しております。今後の大学生活における情報交換の場としてご利用頂きたいと考えています。

島根県立大学北東アジア地域研究センター（NEAR センター）  
タタールスタン共和国科学アカデミー歴史研究所

## 国際学術会議

# タタール世界と日本

——文化・経済・技術の接触と相互関係——

（申込不要・入場無料）

2015 年

10 月 23 日（金）

9：30 開場

10：00 ～ 17：00（12：20 ～ 13：20 休憩）

場所 **タウンプラザしまね**

（松江市殿町 8-3 島根県市町村振興センター）



島根県立大学は、著名な言語学者である服部四郎氏とマヒラ夫人が愛蔵した戦前の貴重なタタール語書籍を多数所蔵しています。この資料の縁あって、島根県立大学北東アジア地域研究センターは昨年度タタールスタン共和国科学アカデミー歴史研究所と学術交流協定を締結しました。

在日タタール人によって日本で初めてのモスクが神戸に建設されて 80 周年に当たる今年、タタールスタン共和国の研究者が松江を訪問、お互いの国の歴史、「タタール」と「たたら」にかけた伝統的製鉄技術の比較、そして島根県立大学所蔵のタタールや服部氏が研究に力を入れたモンゴル関係の貴重資料をめぐる学術会議を開催します。日本の歴史や製鉄技術と比べながら、普段は聞くことのできないタタール人の歴史や製鉄の歴史の一端に触れる興味深い機会です。また、島根県内では紹介されることの少ない、島根県立大学所蔵のタタール関係やモンゴル関係の貴重資料を知っていただくよい機会です。ご来場をお待ち申し上げます。

お問い合わせ：島根県立大学事務局企画調整室 0855（24）2201  
〒697-0016 浜田市野原町 2433-2

# プログラム

10:00 ~ 10:20 開会挨拶

井上 厚史（島根県立大学北東アジア地域研究センター長）

ラディク・サリホフ（タタールスタン科学アカデミー歴史研究所副所長）

10:20 ~ 12:20 伝統的社会における現代化—日本とタタール社会を例に—

ラディク・サリホフ（タタールスタン科学アカデミー歴史研究所副所長）

「タタール社会における近代化過程—主たる問題をめぐって—」

リリヤ・ガブドラフィコヴァ（タタールスタン科学アカデミー歴史研究所主任研究員）

「20世紀初頭におけるタタール人の日本人イメージ認識」

米原 謙（元大阪大学教授）

「日本ナショナリズムの光と影—陸羯南の例—」

自由討論

司会：井上 治（島根県立大学北東アジア地域研究センター）

12:20 ~ 13:20 休憩

13:20 ~ 14:50 たたら吹き製鉄の起源と発展

角田 徳幸（島根県立古代出雲歴史博物館）

「日本古代製鉄の系譜—日韓製鉄史の比較から—」

エミル・セイダリエフ（タタールスタン科学アカデミー歴史研究所クリミア支所主任研究員）

「中世クリミアとクリミア・タタール人の金属鉱業と冶金術—歴史的・考古学的コメント」

討論者：マルセラ・フェスタ（ヴェネツィア大学）

自由討論

司会：ラディク・サリホフ（タタールスタン科学アカデミー歴史研究所副所長）

15:00 ~ 17:00 服部四郎文庫—研究の展望

ラリサ・ウスマノヴァ（タタールスタン科学アカデミー歴史研究所主任研究員、准教授）

「服部四郎とタタール人—学術的・個人的関係」

井上 治（島根県立大学北東アジア地域研究センター）

「戦中から戦後のモンゴル研究の一断面—服部文庫所蔵資料から—」

マラト・ギバトディノフ（タタールスタン科学アカデミー歴史研究所教育史・理論部門長）

「服部四郎文庫所蔵タタール資料とタタール教育史研究の展望」

自由討論

司会：井上 厚史（島根県立大学北東アジア地域研究センター長）

閉会

## 平成27年度健康教育講演の開催

1. **演題名**：機能性医学に基づくケトジェニックダイエット-食生活のデフォルトについて-
2. **目的**：講演を通じて、学生、教職員、地域住民に人間の本来の機能に基づく食生活を理解していただくこと。
3. **日時／場所**：  
【浜田キャンパス】平成27年11月4日（水）14時50分～16時20分  
／島根県立大学浜田キャンパス 講義棟 中講義室6（浜田市野原町2433-2）  
【出雲キャンパス】平成27年12月2日（水）13時30分～15時00分  
／島根県立大学出雲キャンパス 2号館3階 大講義室（出雲市西林木町151）  
【松江キャンパス】後日開催予定  
／島根県立大学短期大学部松江キャンパス（松江市浜乃木7-24-2）
4. **内容**：

現代の日本人は明らかに糖質を摂り過ぎているのではないのでしょうか？ドーナツ、チョコレート、アイスクリームなどのスイーツは欠かせない。ごはんを食べないと落ち着かない。コンビニ弁当、丼もの、カレーライス、チャーハンなどが好き。飲んだ後にはシメのラーメンやごはんが食べたくなる。このような食生活を続けていると、内臓脂肪による肥満から、食後高血糖、高血圧、脂質異常が同時に起こるメタボリック症候群、そして糖尿病、動脈硬化、慢性腎臓病、心筋梗塞、脳卒中、ガン、認知症などの生活習慣病へとドミノ倒しのように次々と病気が襲ってきます。また、動悸、手足のしびれ、筋肉のこわばり、あるいは頭痛などの症状が出てきて、精神的にはイライラしたり、不安感が募ったり、恐怖心かられることがあります。したがって、正しい食生活を普及させれば、自然と適正体重が保たれ、肥満になることはなく、糖代謝異常・糖尿病へのドミノが倒れず、生活習慣病は予防できると考えられます。

これからは病気になってから治療するのではなく、どのようにして病気を日頃から予防するかが大切であります。このケトジェニックダイエットは、低糖質食によって、糖質を優先してエネルギーをえる糖質代謝から脂肪の燃焼を優先する脂質代謝へと体質を改善させることにより、すべての生活習慣病の原因であると考えられている血糖値の乱高下を防ぎ、さらにアンチエイジングに関与する長寿遺伝子を活性化させ、人間が持っている本来のエネルギー回路であるケトン体回路をオンにして、体のエネルギー源をケトン体エネルギーにシフトさせ、人間を健康長寿、病気予防へ導く理想的なダイエットです。

今回の講演では、日本ファンクショナルダイエット協会認定のケトジェニックダイエットアドバイザー（秦 幸吉）がケトジェニックダイエットの実践方法についても分かりやすく解説します。

5. **講師**：公立大学法人島根県立大学保健管理センター長 秦 幸吉（はた こうきち）

島根医科大学卒業。医学博士。日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医・指導医。  
日本ファンクショナルダイエット協会認定ケトジェニックダイエットアドバイザー。

6. **参加者**：学生、教職員、参加希望の一般の方
7. **参加方法**：参加を希望される方は当日、直接会場へお越し下さい。参加料は不要です。
8. **その他**：今回の講演を機会に、人間の本来の機能に基づく食生活が生活習慣病予防の基本であることをご理解いただければ幸いです。